

平成19年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

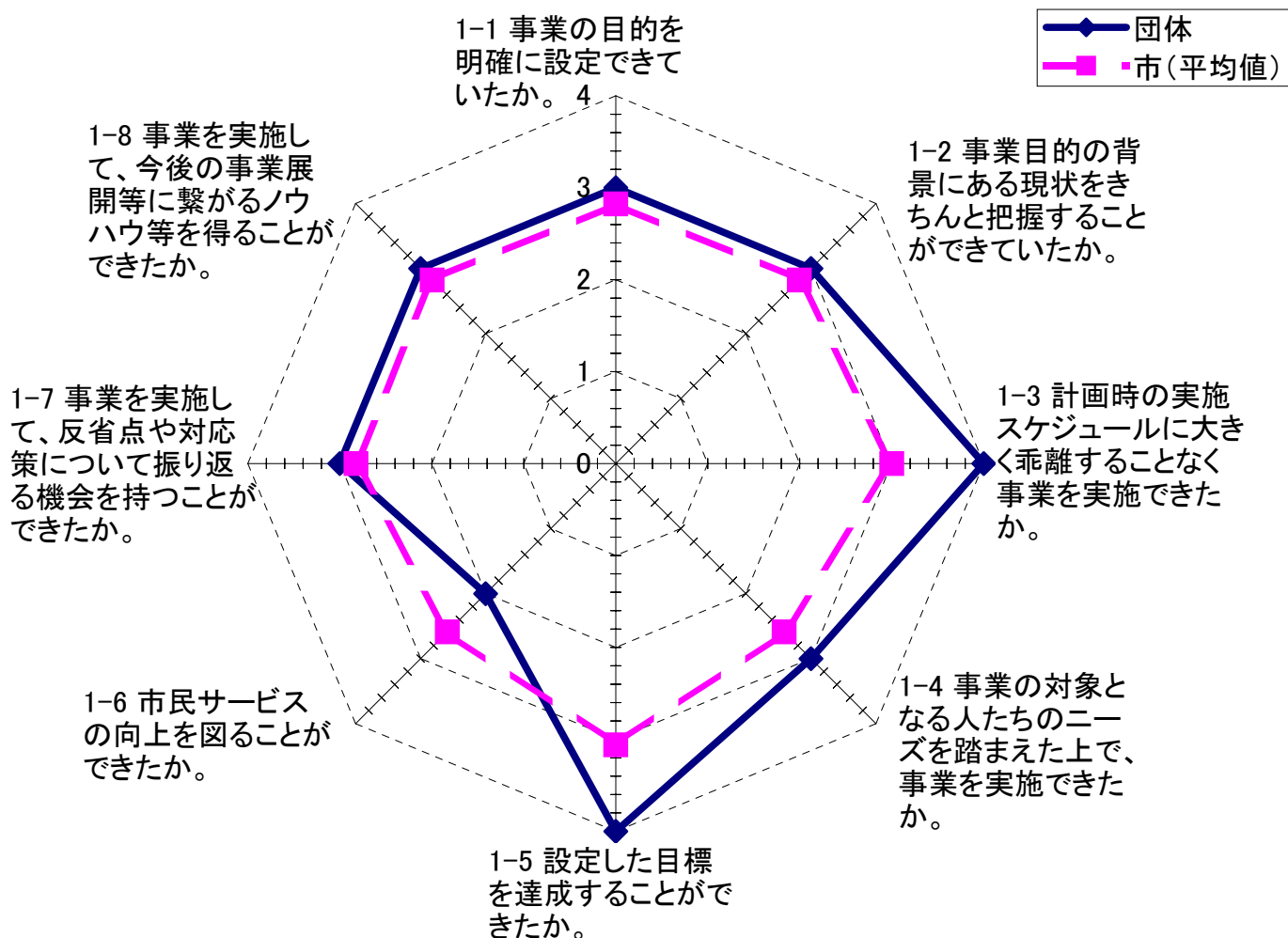
採点基準

事業名 緑地(里地里山)保全活動事業
 団体名 (特非)藤沢グリーンスタッフの会
 担当課 公園みどり課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1 事業結果の振り返り(効果・成果)

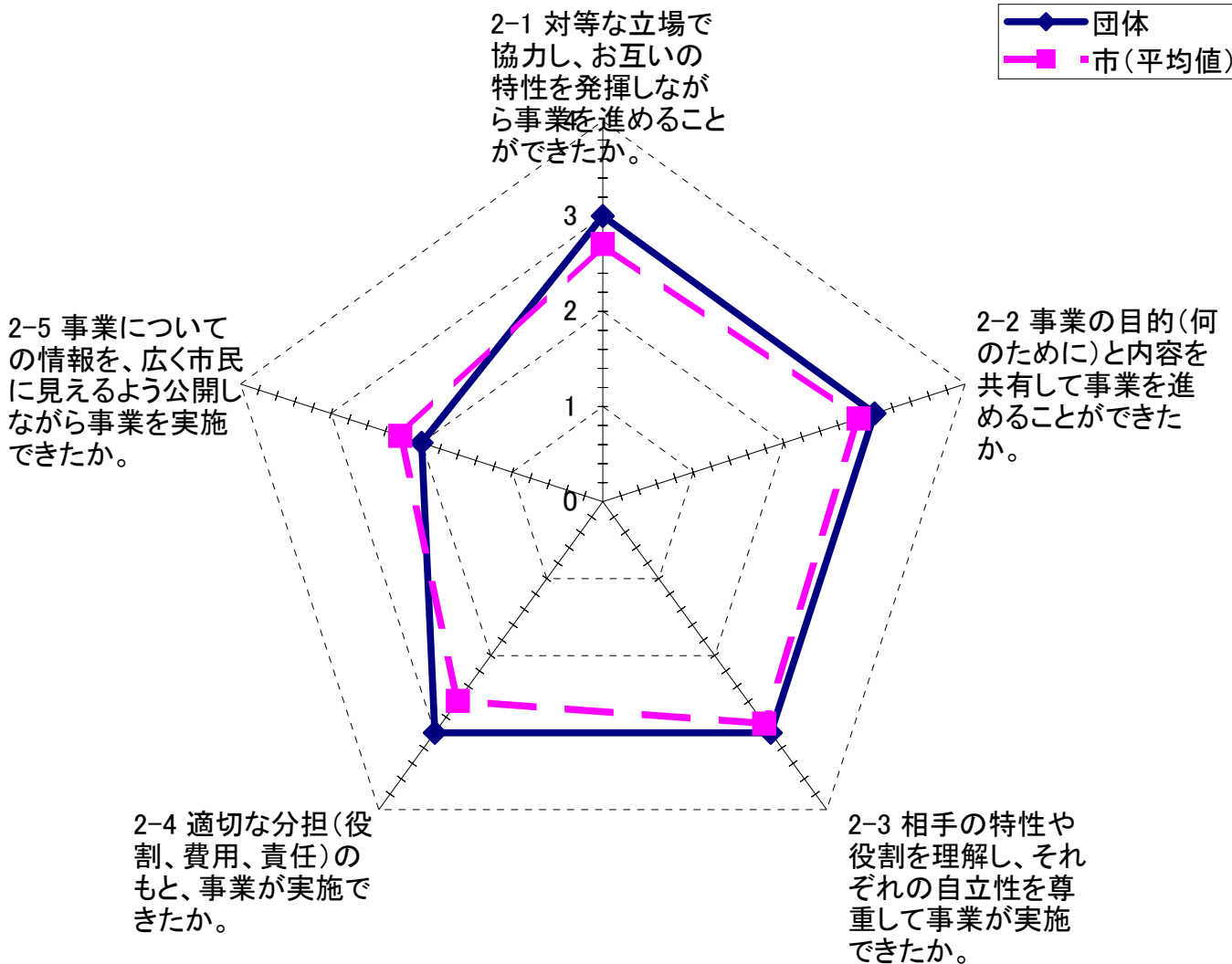
設問	内容	団体	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	3	2.82
1-2	事業目的の背景にある現状をきちんと把握することができていたか。	3	2.82
1-3	計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。	4	3.00
1-4	事業の対象となる人たちのニーズを踏まえた上で、事業を実施できたか。	3	2.59
1-5	設定した目標を達成することができたか。	4	3.06
1-6	市民サービスの向上を図ることができたか。	2	2.59
1-7	事業を実施して、反省点や対応策について振り返る機会を持つことができたか。	3	2.82
1-8	事業を実施して、今後の事業展開等に繋がるノウハウ等を得ることができたか。	3	2.82



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-3 計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。」及び「1-5 設定した目標を達成することができたか。」について、団体は4点の「非常によくできた」としており、市は3点の「できた」としています。グラフの傾向は同様であり、計画時のスケジュールや目標の設定どおりに事業を実施できており、点差ほどの差異はないものと考えます。また、「1-6 市民サービスの向上を図ることができたか。」については、団体は2点の「ほぼできた」としており、市は2.59点としています。市としても緑地「里地里山」保全事業を通じて、市民サービスの向上に寄与したと考えます。

2 協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	3	2.71
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	3	2.82
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	3	2.88
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	3	2.59
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	2	2.24



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-5 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。」について、団体は2点の“できた”とし、市は少し高い点としています。市としても積極的に活動状況について情報公開をしていくとともに、団体としてもホームページの立ち上げなどを検討中ということなので、今後に期待するところです。

3 講評

月1回の定例会や隔月の活動報告により相互の役割分担・情報共有を適切に行い、互いの特性を發揮しながら事業を進めています。また、近隣住民等からの要望に対しても団体・市で適切に対応しています。さらに、里山保全ボランティアリーダーの養成も着実に進んでいます。これだけの事業をこの経費で実施できたことに示されるように、これらの協働事業の活動をとおして、多くの市民に市有緑地等を共通の財産として維持管理していく考え方を理解してもらえるようになったことは、予想以上の成果があったと考えます。今後、さまざまな課題についても、よく協議・整理を行い、事業に反映できるものは反映し、継続して事業を展開して欲しい。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成19年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

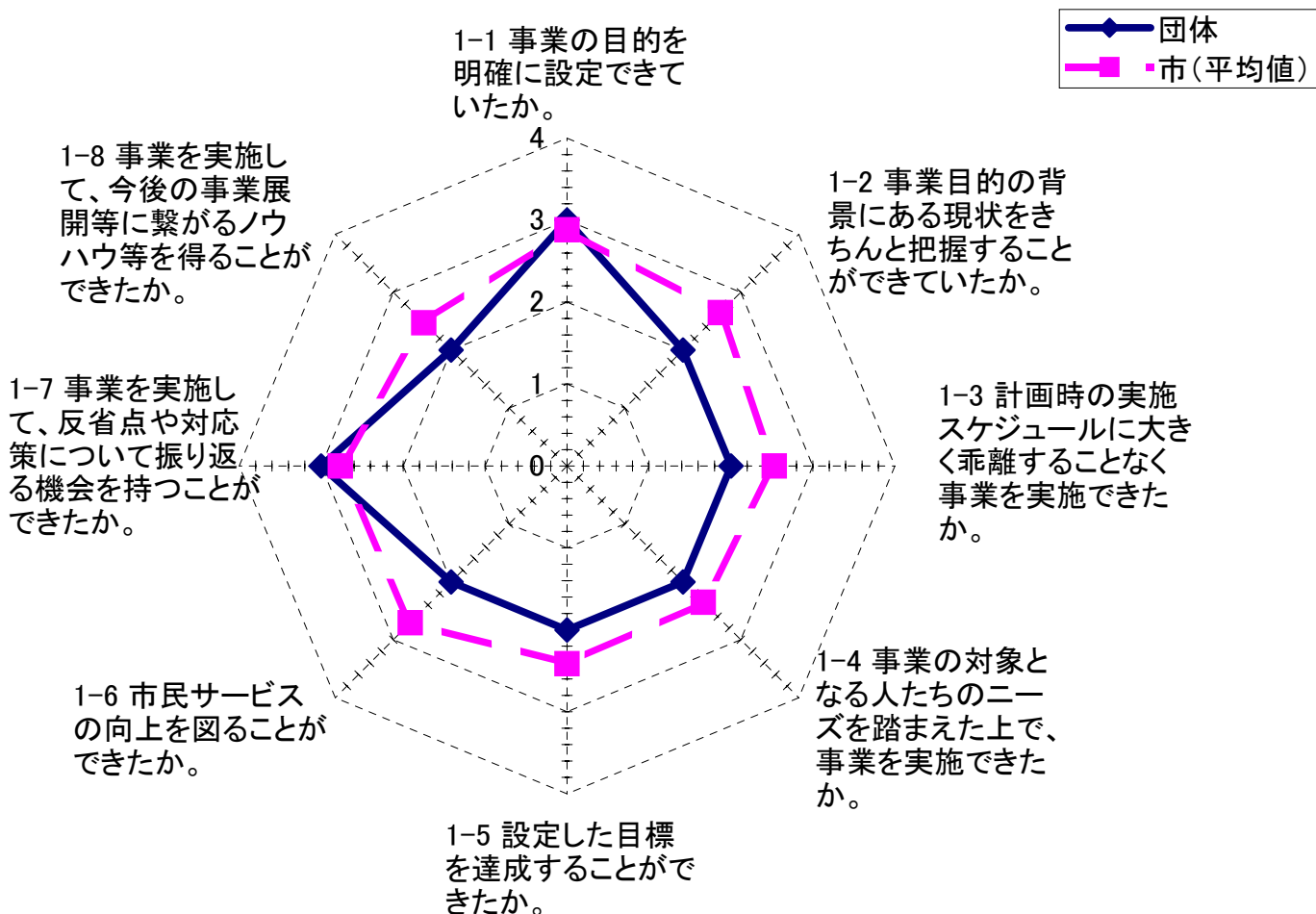
採点基準

事業名 地域ポータルサイト(えのしま・ふじさわポータルサイト)運営事業
 団体名 (特非)湘南ふじさわシニアネット
 担当課 IT推進課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1 事業結果の振り返り(効果・成果)

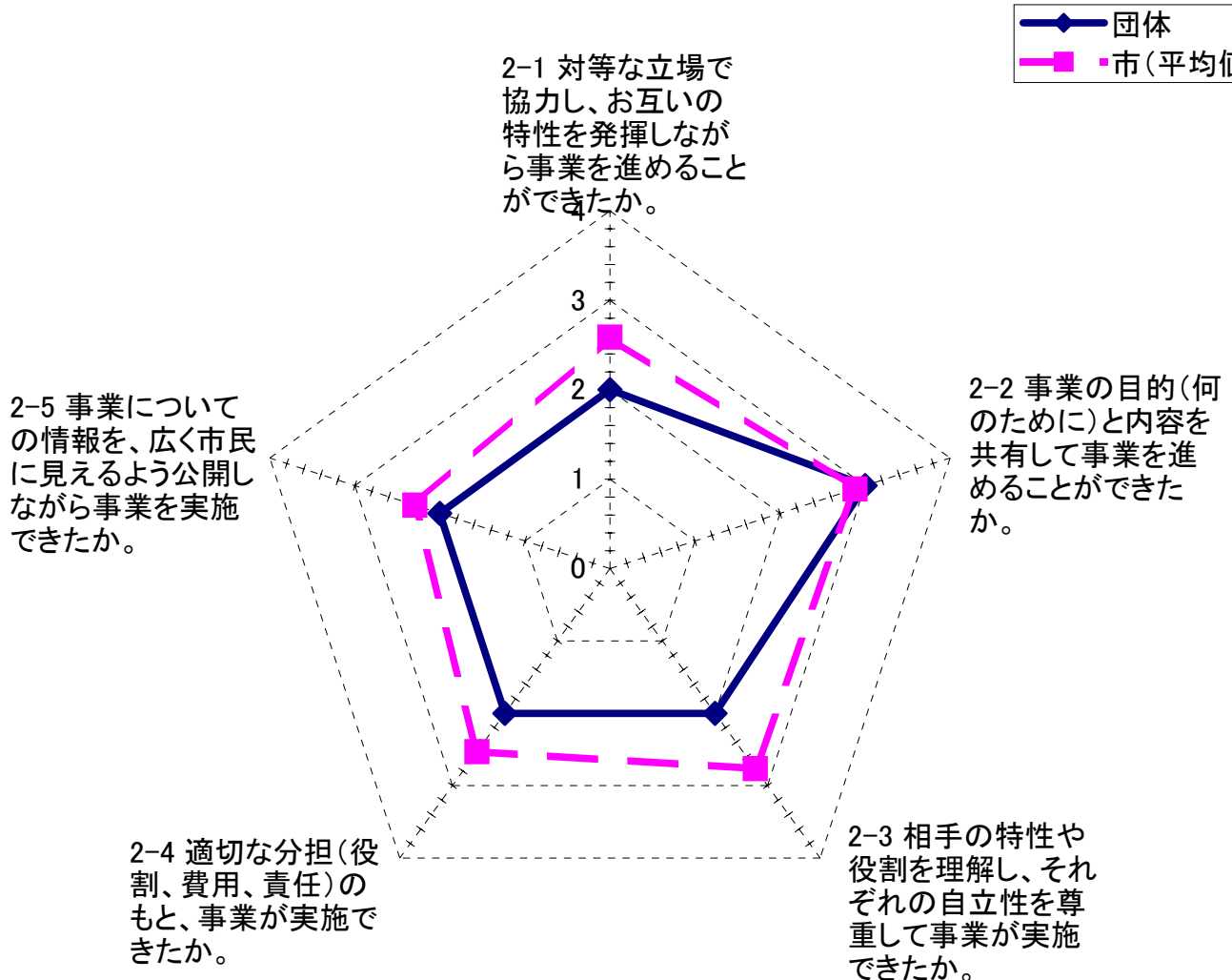
設問	内容	団体	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	3	2.88
1-2	事業目的の背景にある現状をきちんと把握することができていたか。	2	2.65
1-3	計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。	2	2.53
1-4	事業の対象となる人たちのニーズを踏まえた上で、事業を実施できたか。	2	2.35
1-5	設定した目標を達成することができたか。	2	2.41
1-6	市民サービスの向上を図ることができたか。	2	2.71
1-7	事業を実施して、反省点や対応策について振り返る機会を持つことができたか。	3	2.76
1-8	事業を実施して、今後の事業展開等に繋がるノウハウ等を得ることができたか。	2	2.47



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-1 事業の目的を明確に設定できていたか。」及び「1-7 事業を実施して、反省点や対応策について振り返る機会を持つことができたか。」については、団体は3点の“できた”としており、市は少し高い点ですがほぼ均一となっております。その中で、前記の2つの項目は傾向が同様であり、予め事業の目的を明確にした上で協働事業を実施したことがうかがえます。また、週1回の編集会議、月1回の連絡会議、さらにインターネット上の会議室を利用して、常にコミュニケーションをとることにより信頼関係を築き、活発な議論を交わす中で反省点や対応策について振り返る機会を持つことが出来たものと思われれます。

2 協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	2	2.59
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	3	2.88
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	2	2.76
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	2	2.53
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	2	2.29



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-2 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。」について、団体は3点の“できた”とし、市は団体より少し低い点としています。週1回の編集会議、月1回の連絡会議、さらにインターネット上の会議室を利用して、常にコミュニケーションをとることにより信頼関係を築き、活発な議論を交わす中で事業目的と内容を共有して事業を進めることができたものと思われま。

3 講評

綿密な打ち合わせを充分に行い、お互いの思いや意見を尊重する中で「えのしま・ふじさわポータルサイト運営に関する指針」を共同して作成し、運営上の目的・役割分担も明確にした中で情報共有を行い人材や技術を活かした協働事業を実施しており、地域ポータルサイトの自主運営を目指して取り組んでいることは評価できます。成果として、コンテンツの充実と更新頻度が向上し、結果としてアクセス数の向上をもたらしています。今後は、自主運営に向けて運営資金の確保が課題となっていくと考えられますが、広告掲載だけでなくコンテンツそのものが運営費となるような体制が理想と思われま。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成19年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

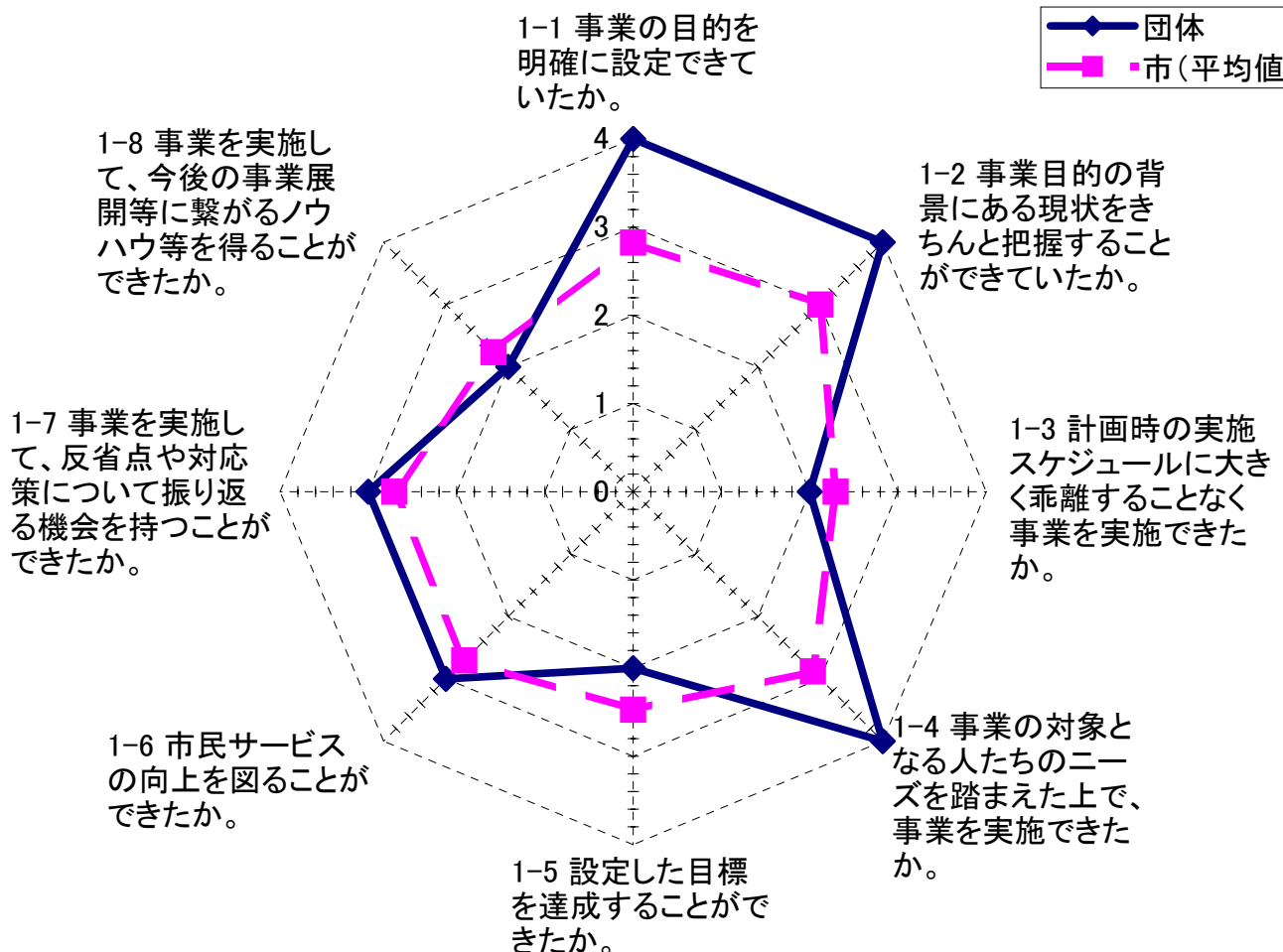
採点基準

事業名 防犯対策システム運営事業
 団体名 (特非)地域魅力
 担当課 市民自治推進課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1 事業結果の振り返り(効果・成果)

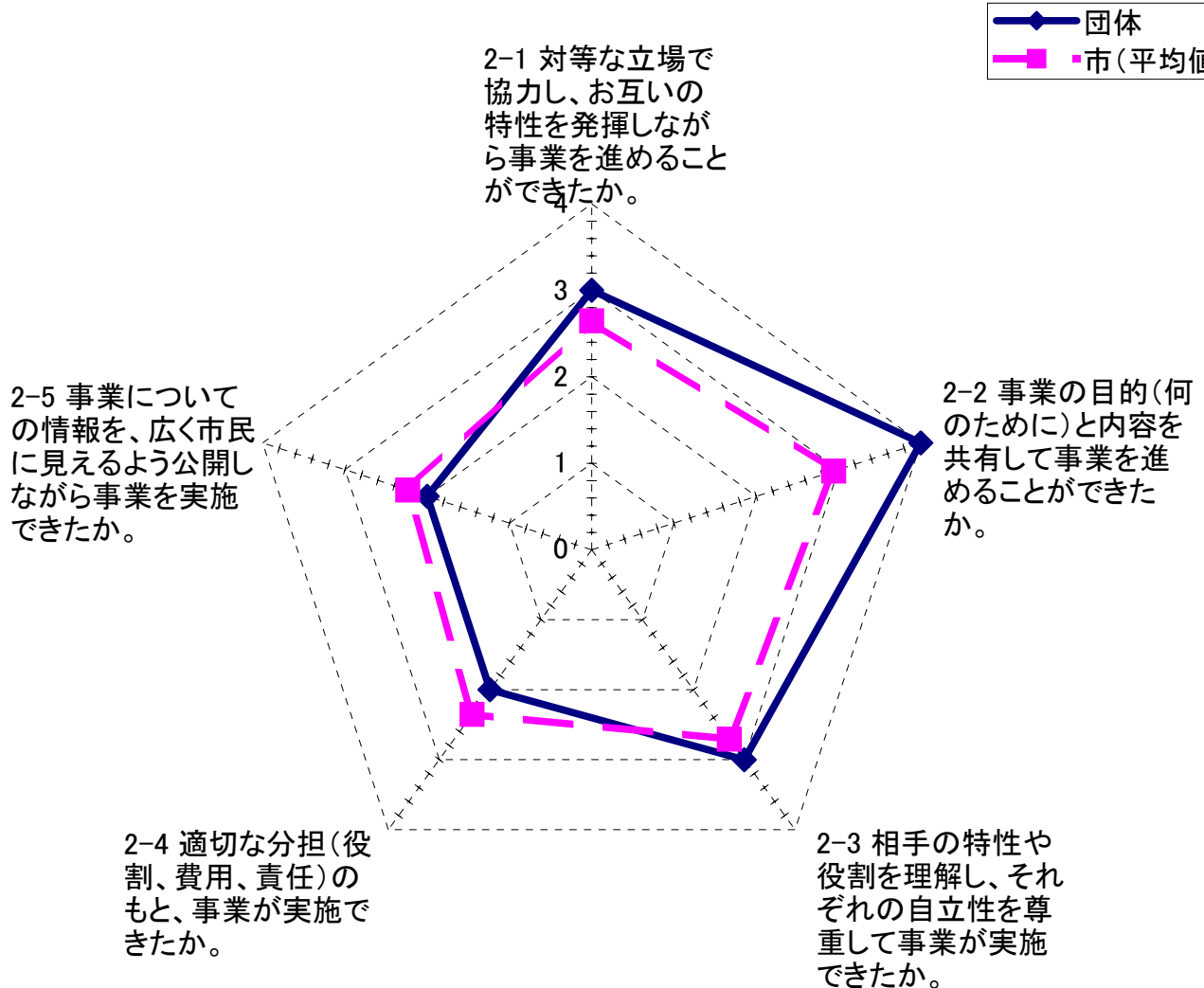
設問	内容	団体	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	4	2.82
1-2	事業目的の背景にある現状をきちんと把握することができていたか。	4	3.00
1-3	計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。	2	2.29
1-4	事業の対象となる人たちのニーズを踏まえた上で、事業を実施できたか。	4	2.88
1-5	設定した目標を達成することができたか。	2	2.47
1-6	市民サービスの向上を図ることができたか。	3	2.71
1-7	事業を実施して、反省点や対応策について振り返る機会を持つことができたか。	3	2.71
1-8	事業を実施して、今後の事業展開等に繋がるノウハウ等を得ることができたか。	2	2.24



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、「1-1 事業の目的を明確に設定できていたか。」「1-2 事業目的の背景にある現状をきちんと把握することができていたか。」及び「1-4 事業の対象となる人たちのニーズを踏まえた上で、事業を実施できたか。」については、団体は4点の“非常によくできた”としています。また、「1-3 計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。」「1-5 設定した目標を達成することができたか。」及び「1-8 事業を実施して、今後の事業展開等に繋がるノウハウ等を得ることができたか。」については、団体は2点の“ほぼできた”としています。市の点数のバラツキはさほどなく傾向も団体と同様です。事業目的の設定、背景の現状把握、ニーズの把握については評価が高く、スケジュールや目標の達成、ノウハウの習得の点ではやや低いものの、協働事業として適切な役割分担のもとに24時間365日の対応が可能になり、犯罪の未然防止に向けた啓発が図られていると考えます。

2 協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	3	2.65
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	4	2.94
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	3	2.71
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	2	2.35
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	2	2.24



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、「2-2 事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。」について、団体は4点の“非常によくできた”としています。また、「2-4 適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。」と「2-5 事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。」については、団体は2点の“ほぼできた”としています。市の点数も傾向は同じであり、事業の目的と内容を共有して事業を進め、適切な分担や情報の公開についても“ほぼできた”と思われます。

3 講評

犯罪は、時間や曜日等にとらわれず、いつ起こるか予測がつかないものですが、起きた犯罪情報についてはリアルタイムに配信し、二次的な犯罪や再び犯罪を起ささない対策が必要です。その意味からも、防犯対策システムを協働事業として実施し、団体の柔軟性や迅速性を生かして、24時間365日、犯罪情報をリアルタイムに配信することにより、自主防犯意識の高揚や犯罪の未然防止に向けた啓発が図られたことは評価します。しかし、実際に問題が発生したとき、発信者自身の安全確保や協力員の安全確保など、対応すべき課題は大きいので、引き続き協働事業としてよりよいシステムにしていければと思います。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成19年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

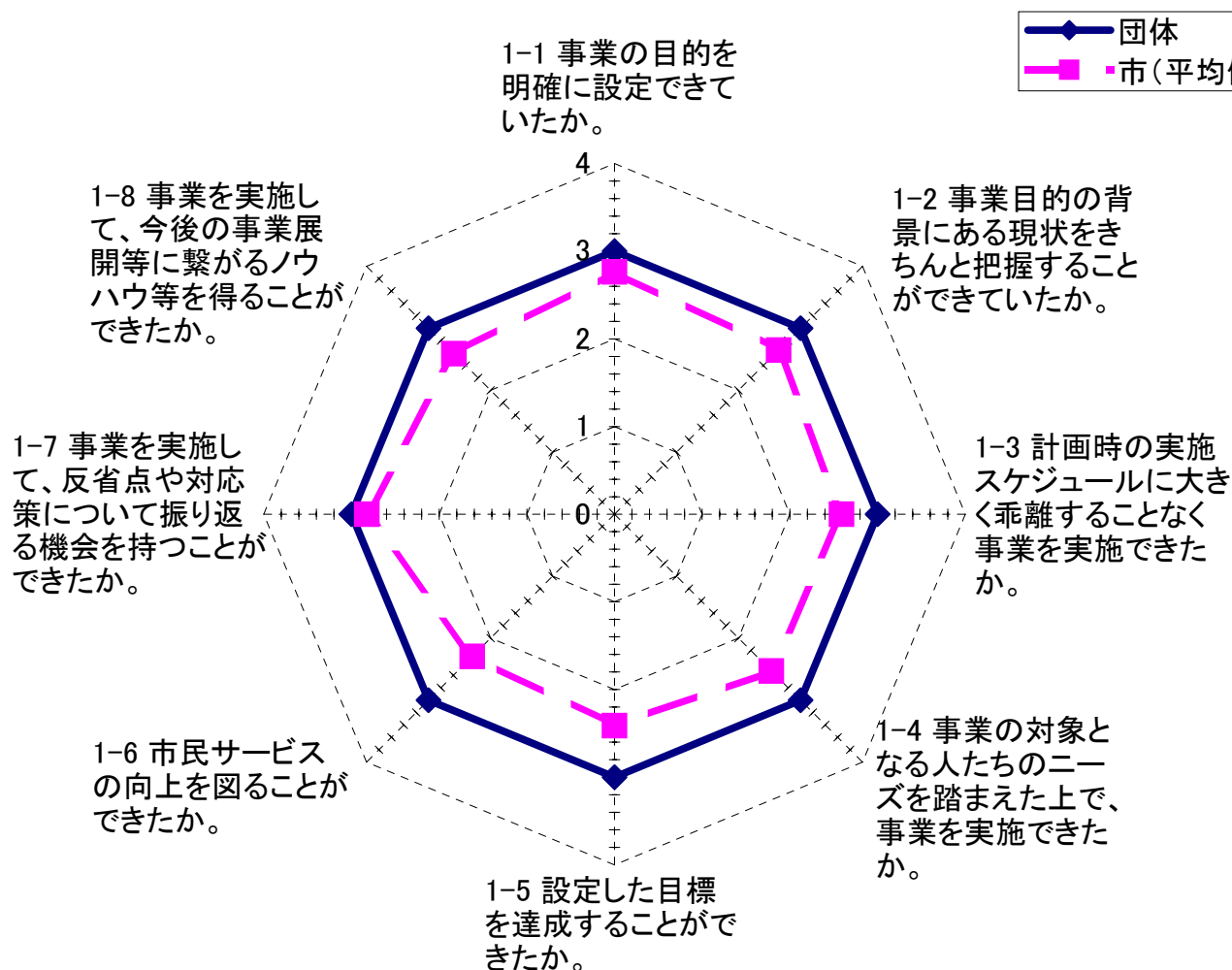
採点基準

事業名 多様化するISO国際規格等の無料講習会実施事業
 団体名 (特非)湘南ふじさわシニアネット
 担当課 産業振興課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1 事業結果の振り返り(効果・成果)

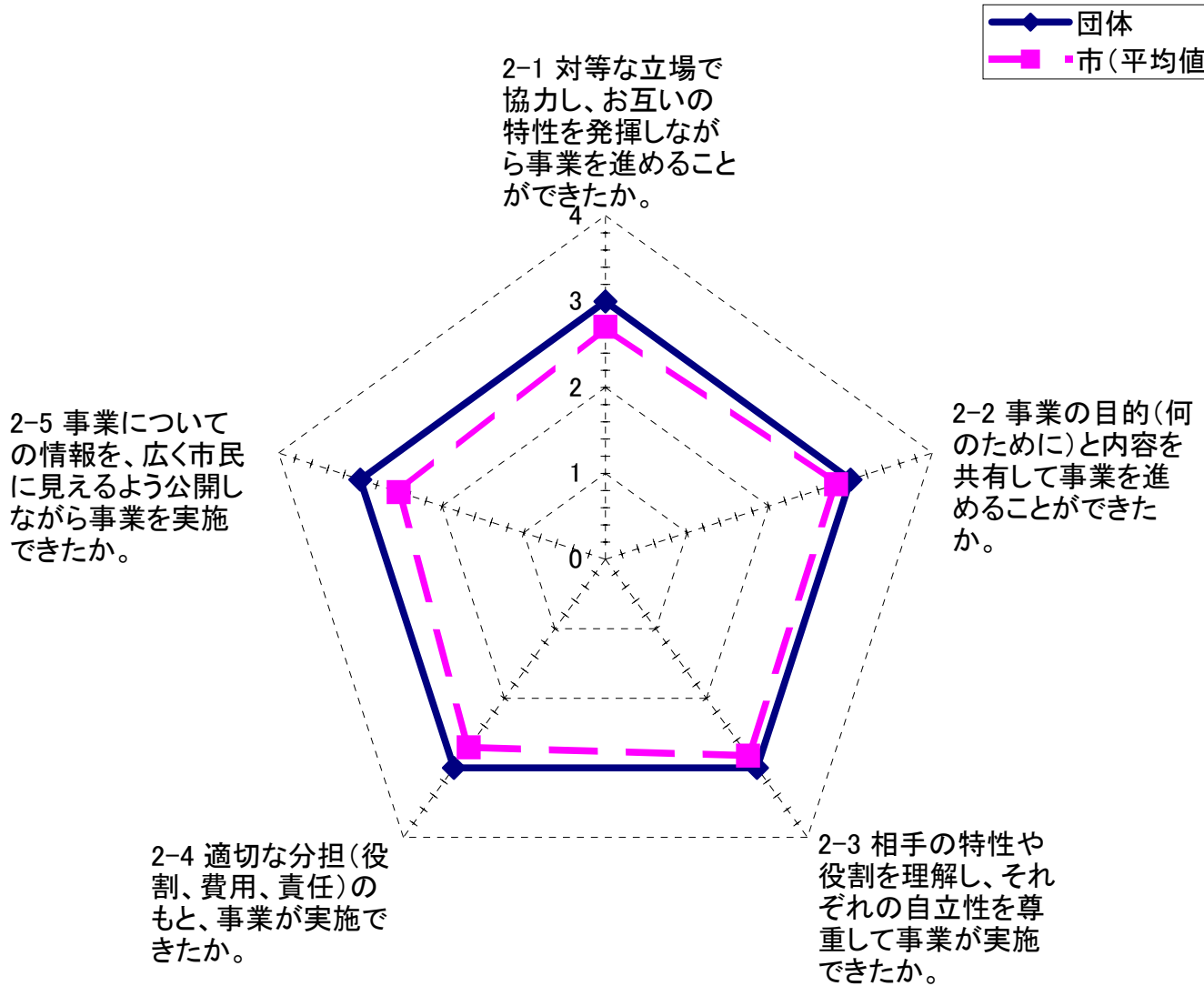
設問	内容	団体	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	3	2.76
1-2	事業目的の背景にある現状をきちんと把握することができていたか。	3	2.65
1-3	計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。	3	2.59
1-4	事業の対象となる人たちのニーズを踏まえた上で、事業を実施できたか。	3	2.53
1-5	設定した目標を達成することができたか。	3	2.41
1-6	市民サービスの向上を図ることができたか。	3	2.29
1-7	事業を実施して、反省点や対応策について振り返る機会を持つことができたか。	3	2.82
1-8	事業を実施して、今後の事業展開等に繋がるノウハウ等を得ることができたか。	3	2.59



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、団体側は全ての項目で3点“できた”としており、市の点数は少し下まわるもののほぼ均等で同じような傾向となっています。これは、講習会の一般参加者は、当初計画を下回る結果となったが、本講習会に対する受講者の評価は全般的に高く、講習会の受講を契機に実際にエコアクション21の認証取得に着手した市内企業も現れるなど、本事業をとおり、ISO国際規格等に対する中小企業の関心向上を図ることができ、また、受講者の中にはISO国際規格等の既取得者も含まれており、こうした既取得者によるISO国際規格等の維持・管理等にも大きく寄与することができたと思います。

2 協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を発揮しながら事業を進めることができたか。	3	2.71
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	3	2.82
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	3	2.82
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	3	2.71
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	3	2.53



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、団体側は全ての項目で3点“できた”としており、市の点数は少し下まわるもののほぼ均等で同じような傾向となっています。これは、対等な立場で、それぞれの役割・特性を発揮しながら、事業の内容についても十分に共有して、お互いの自立性を尊重し、責任をもって互いの分担事務を適切に行ったもので、事業の情報についても市広報やホームページをはじめとして、市内の経済団体等の協力を得て広く周知を行ったり、事業実施結果を団体のホームページに掲載するなど、市民に見えるよう公開していることがあげられます。

3 講評

講習会の受講者からの評価は全般的に高く、実際にエコアクション21の認証取得に着手した市内企業も現れるなど、本事業をとおして、ISO国際規格等に対する中小企業の関心向上を図ることができたものと評価します。一方、講習会の参加者が当初計画より下回るなど、主催者の思いと受講者側の思いとで多少のずれがあったものと思われませんが、これは、今後に生かすべき課題であると考えます。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。

平成19年度実施協働事業の振り返り(気づきの共有から改善へ)

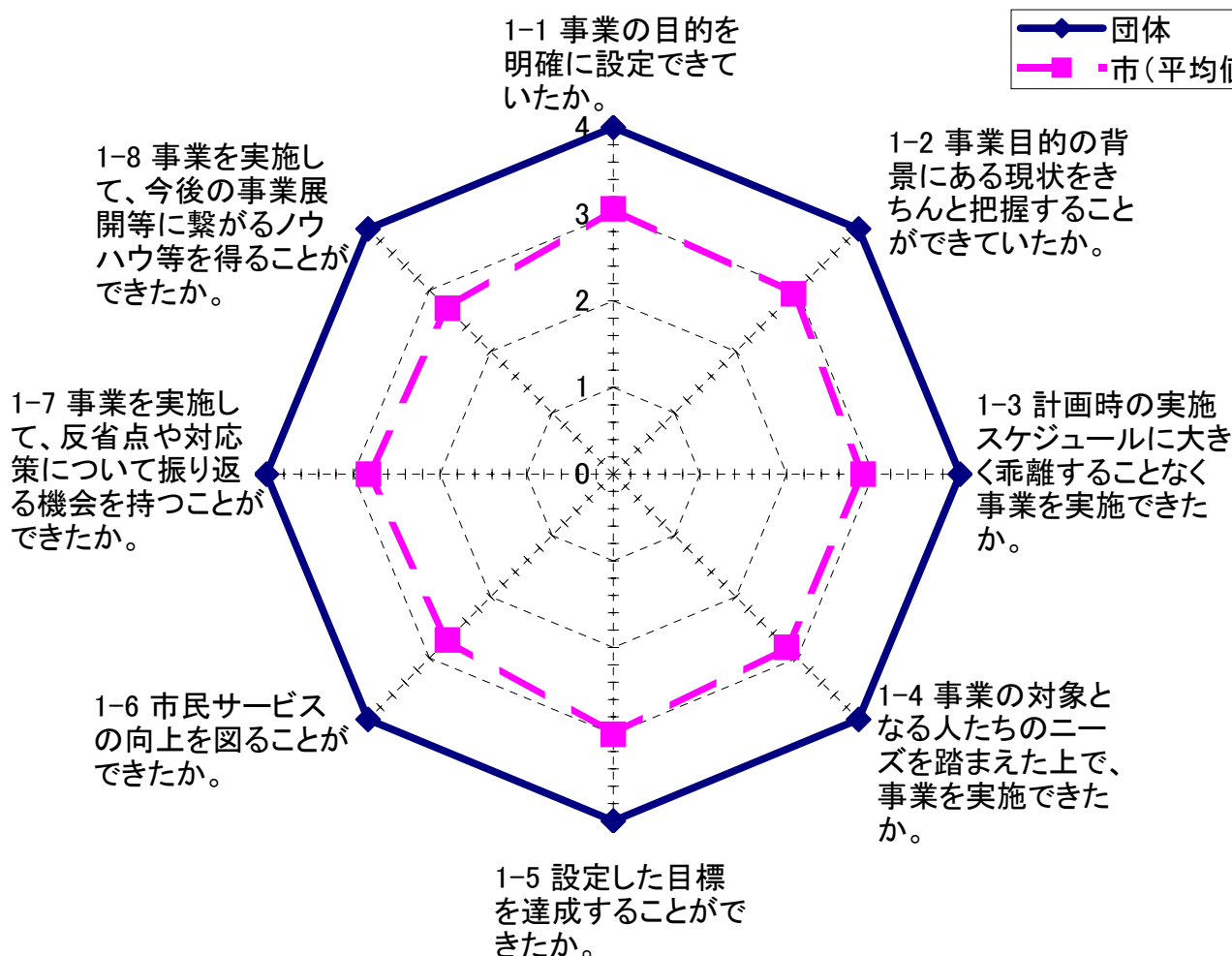
採点基準

事業名 傾聴ボランティア育成・派遣事業
 団体名 (特非)シニアライフセラピー研究所藤沢事務局
 担当課 高齢福祉課

できなかった	0
あまりできなかった	1
ほぼできた	2
できた	3
非常によくできた	4

1 事業結果の振り返り(効果・成果)

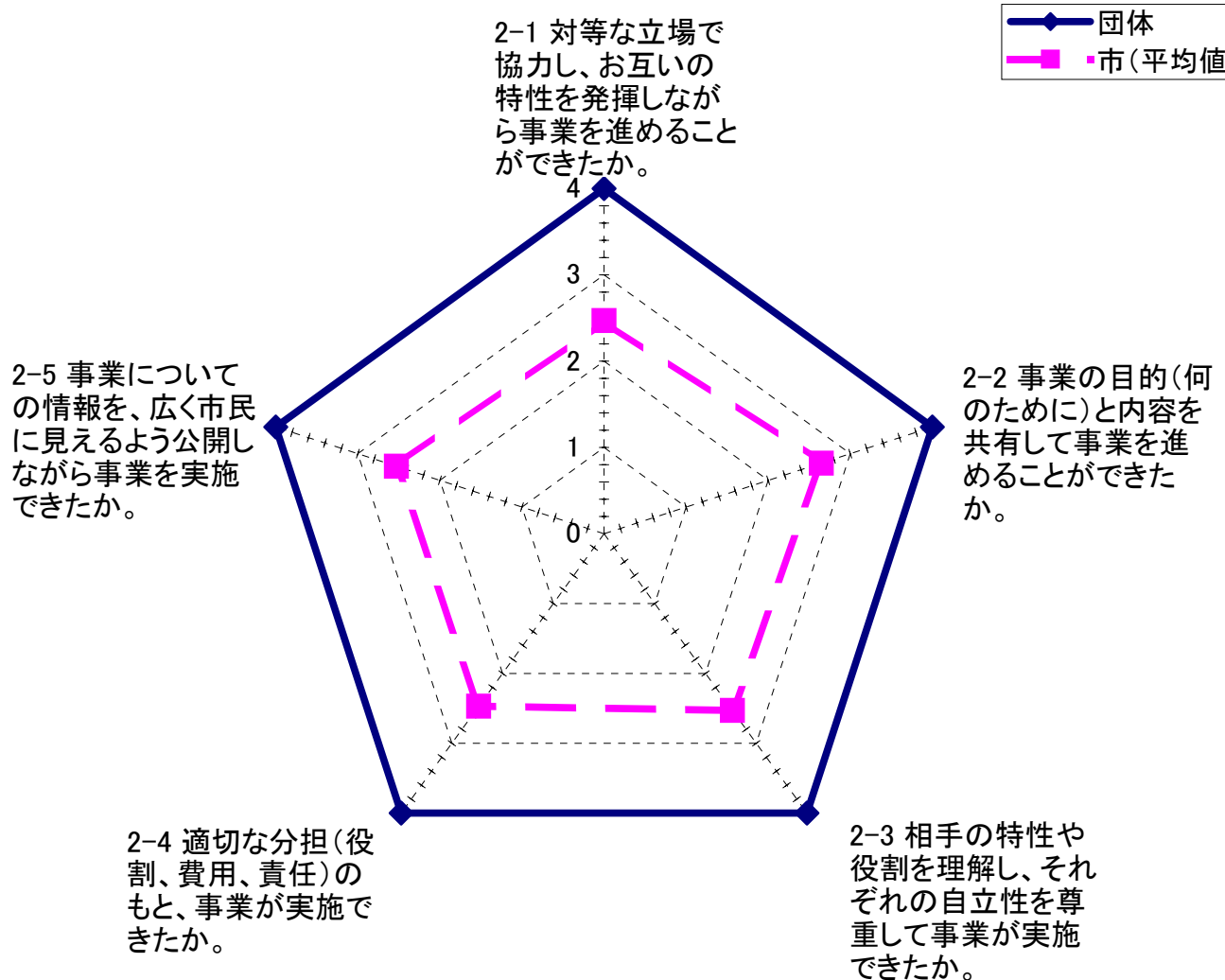
設問	内容	団体	市(平均点)
1-1	事業の目的を明確に設定できていたか。	4	3.06
1-2	事業目的の背景にある現状をきちんと把握することができていたか。	4	2.94
1-3	計画時の実施スケジュールに大きく乖離することなく事業を実施できたか。	4	2.88
1-4	事業の対象となる人たちのニーズを踏まえた上で、事業を実施できたか。	4	2.82
1-5	設定した目標を達成することができたか。	4	3.00
1-6	市民サービスの向上を図ることができたか。	4	2.71
1-7	事業を実施して、反省点や対応策について振り返る機会を持つことができたか。	4	2.82
1-8	事業を実施して、今後の事業展開等に繋がるノウハウ等を得ることができたか。	4	2.71



1 事業結果の振り返り(効果・成果)からは、特徴的な部分として、団体側は全ての項目で4点“非常によくできた”としており、市の点数はこれを下まわるもののほぼ均等で同じような傾向となっています。これは、当初、傾聴ボランティアの養成に50名を想定したところ、200名を超える参加者がありました。責任を持って養成講座を開催し、現場での実習を行う必要があったため、対応できる範囲で柔軟に対応を図った結果、76名でスタートし、最終的に67名の養成を行うことができたことによるものです。また、講座修了生をメンバーとする傾聴連絡会に65名が自発的に結成参加したり、36名の修了生が福祉施設でボランティア活動を継続していることは、協働事業としての効果・成果と捉えられます。

2 協働の原則からの振り返り

設問	内容	団体	市(平均点)
2-1	対等な立場で協力し、お互いの特性を發揮しながら事業を進めることができたか。	4	2.47
2-2	事業の目的(何のために)と内容を共有して事業を進めることができたか。	4	2.65
2-3	相手の特性や役割を理解し、それぞれの自立性を尊重して事業が実施できたか。	4	2.53
2-4	適切な分担(役割、費用、責任)のもと、事業が実施できたか。	4	2.47
2-5	事業についての情報を、広く市民に見えるよう公開しながら事業を実施できたか。	4	2.53



2 協働事業の原則からの振り返りからは、特徴的な部分として、団体側は全ての項目で4点“非常によくできた”としており、市の点数はこれを下まわるもののほぼ均等で同じような傾向となっています。これは、対等な立場で、それぞれの役割・特性を發揮しながら、事業の内容についても十分に共有して、お互いの自立性を尊重し、責任をもって互いの分担事務を適切に行い、事業の情報については市では広報や市内公共施設へのチラシの設置を、団体ではホームページや発行物を利用して情報公開に努めたことがあげられます。

3 講評

当初から3年計画の協働事業として考えており、まず傾聴ボランティアの初期コースとして、当初目標の50名より多い76名の受講者でスタートし、最終的に67名が終了することができました。また、修了生の内、傾聴連絡会として65名が自発的に結成参加し、36名の修了生が福祉施設でボランティア活動を継続している実質的なボランティアとしての養成が出来たことは高く評価できます。次年度以降も引き続き協働事業として期待するものです。

※この講評は、協働事業を実施した団体と担当課及び審査選定を行った市の協働事業推進会議と審査選定にご意見を頂いた市の審議会である藤沢市市民活動推進委員会からの意見について、代表的なものを要約してまとめたものです。